

# ウメ新品種‘十郎小町’及び‘虎子姫’の 育成経過とその特性

曾根田友暁・内山真由美・川嶋幸喜・柴田健一郎・曾我綾香

## Breeding Process and Characteristics of New Japanese Apricot Cultivars, ‘Jurokomachi’ and ‘Torakohime’

Tomoaki SONEDA, Mayumi UCHIYAMA, Kouki KAWASHIMA,  
Kenichiro SHIBATA and Ayaka SOGA

### 摘 要

早生で結実性に優れる漬け梅用品種の育成を目的として1997年から交雑育種に取り組み、‘十郎小町’及び‘虎子姫’の2品種を育成した。‘十郎小町(じゅうろうこまち)’(‘玉織姫’×‘十郎’)は小田原市において5月29日頃に収穫される極早生品種で、果実重は20g程度の中粒となる。‘虎子姫(とらこひめ)’(‘南高’自然交雑実生)は平塚市において6月20日頃に収穫される品種で、果実重は48g程度の大粒となる。両品種とも結実性は良好で、果皮の柔らかい高品質な梅干しに加工できる。

キーワード：ウメ，新品種，早生，漬けウメ

### Summary

‘Jurokomachi’ and ‘Torakohime’ are new Japanese apricot (*Prunus mume* Sieb. et Zucc.) cultivars for pickled plum. ‘Jurokomachi’ was selected from seedlings obtained from a cross between ‘Tamaorihime’ and ‘Juro’ in 1999. The fruit matures around 29th May at Odawara, Kanagawa pref. and has medium fruit size about 20 grams. ‘Torakohime’ was selected from open pollinated seedlings of ‘Nanko’ in 1997. The fruit matures around 20th June at Hiratsuka, Kanagawa pref. and has large fruit size about 48 grams. These are superior in the fructification and the qualities of pickles because of the soft skin and flesh texture.

**Key words:** Japanese apricot, new cultivar, early maturing, pickled plum

### 緒 言

神奈川県のウメ栽培は県西部が主産地であり、漬け梅用としては‘十郎’と‘南高’が主要品種として生産されている。一般家庭でのウメの用途は梅酒や梅干し等への加工であるため、他産地より早く流通させることにより有利に販売することができると考えられる。

しかし、近年はブランド力のある和歌山産‘南高’が6月上旬から関東に出まわるようになり、神奈川県

ウメは価格の低迷により厳しい販売状況が続いており、産地の維持・発展に向けた新たな取り組みが求められている。

神奈川県の漬け梅用の主要品種‘十郎’は中粒で果皮が柔らかく‘南高’よりも高品質な梅干しに加工できるが、結実が不安定で収益が安定しにくい品種である。一方、‘南高’は結実性と収量性に優れた大粒品種であるが、神奈川県では収穫期が6月下旬になるため

高価格は望めなくなっている。そのため、県内生産者からは早生で結実性に優れた新品種の育成が強く要望されていた。

そこで、神奈川県農業技術センターでは早生で結実性に優れた漬け梅用新品種の育成を目的として 1997 年より交雑育種に取り組んできた。その結果、育種目標に合致した極早生・中粒の品種‘十郎小町（じゅうろうこまち）’と、育種目標より収穫は遅いが結実性と梅干しの品質に優れる大粒品種‘虎子姫（とらこひめ）’を育成したので、その育成経過と品種特性について報告する。

## 育成経過

### 1. ‘十郎小町’

神奈川県農業技術センターにおいて 1999 年に交雑を行い、37 組み合わせ、180 個体の交雑実生を得た。

‘十郎小町’（系統番号 99-37-1）は、群馬県育成の‘玉織姫’を種子親、県西部における主要品種の‘十郎’を花粉親とする 4 個体の交雑実生の中から選抜された。農業技術センターにおいて播種と養成を行った実生を 2003 年に小田原市梅研究会試験園（小田原市上曾我）に移植し、2006 年に初結実に至った。熟期が早く、中粒の系統であったため、2006 年に収穫された果実を梅干しに加工した結果、製品は肉質や色・風味も優れていることが確認され、同年に有望系統と判定した。2007 年より高接ぎ樹の育成及び品種登録出願に向けた特性調査を行った。2010 年 12 月に‘十郎小町’と命名し、2011 年 6 月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、2011 年 10 月 7 日付で出願公表された（出願番号第 26083 号）。なお、‘十郎小町’の選抜と出願についてはウメ生産者の団体である小田原市梅研究会と共同で実施した。

### 2. ‘虎子姫’

神奈川県農業技術センターにおいて 1997 年に 6 品種を自然交雑させ、621 個体の自然交雑実生を得た。

‘虎子姫’（系統番号 8-34）は、‘南高’を種子親とする 247 個体の自然交雑実生の中から選抜された。1998 年に選抜圃場に定植され、2002 年に初結実した。

収量や果実品質及びヤニ果発生率等を検討した結果、多収でヤニ果発生が少ない大粒の系統であると認められたため、同年有望系統と判定した。2003 年の調査結果より核が小さく果肉割合が高いことから、漬けウメ向きの系統であることが確認された。その後も連年結実が安定しており、‘南高’よりやや早く収穫できることも確認できたため、2009 年より品種登録出願に向けた特性調査を行った。2010 年 12 月に‘虎子姫’と命名し、2011 年 6 月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、2011 年 10 月 7 日付で出願公表された（出願番号第 26082 号）。

### 3. 育成担当者と担当期間

神奈川県農業技術センターにおける‘十郎小町’及び‘虎子姫’の育成担当者と担当期間は以下のとおりである。

内山真由美（1997～1999）、川嶋幸喜（2000～2004）、柴田健一郎（2002～2011）、曾根田友暁（2008～2011）。

## 特性の概要

### 1. ‘十郎小町’

#### (1) 樹・花の特性

樹勢はやや強く、樹姿は直立と開張の間である。開花期の早い品種であり、満開日は育成地（神奈川県小田原市）で 1 月 26 日頃となり‘十郎’よりも 1 週間程度早く開花する（表 1）。

#### (2) 果実の特性

完熟果の収穫盛期は育成地において 5 月 29 日頃となり、小田原市において 5 月下旬から 6 月上旬にかけて収穫される極早生品種である（表 2、図 1）。

表 1 ‘十郎小町’及び‘虎子姫’の樹及び花の特性

品種	樹勢	樹姿	満開日 <sup>z</sup>	
			平塚	小田原
十郎小町	やや強	中間	—	1/26
虎子姫	中	開張	2/22	—
玉織姫	中	開張	2/15	—
十郎	中	開張	2/16	2/2
南高	中	開張	2/18	2/13

<sup>z</sup> 2009～2011 年平均

表2 ‘十郎小町’及び‘虎子姫’の果実特性<sup>z</sup>

品種	収穫盛期	果形	果実着色 (陽光面)	果実重 (g)	核重率 (%)	ヤニ果率 (%)
十郎小町	5/29	円	中	20.1	9.6	2.2
虎子姫	6/20	短楕円	少	48.3	0.6	
玉織姫	6/13	円	少	22.3	8.6	10.3
十郎	6/22	円	少	30.4	10.1	4.8
南高	6/25	短楕円	中	51.7	8.4	4.0

<sup>z</sup> ‘十郎小町’は小田原市上曾我(2007, 2009, 2011年)、他の品種は神奈川県農業技術センター(平塚市・2009~2011年)のデータ



図1 ‘十郎小町’の着果状況



図2 ‘十郎小町’の果実外観



図3 ‘虎子姫’の着果状況

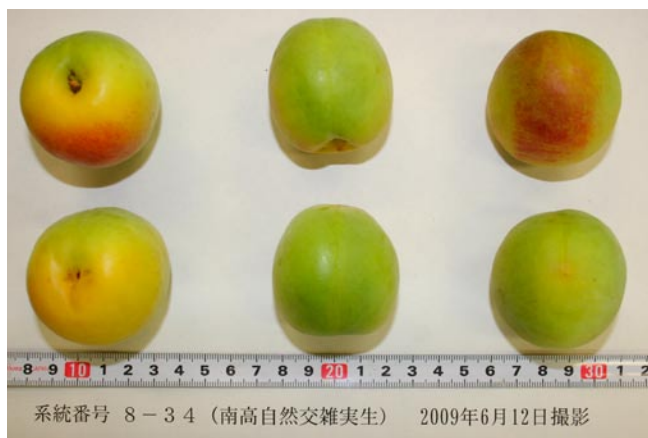


図4 ‘虎子姫’の果実外観

果実重は20g程度で、‘玉織姫’と同程度の中粒となる。果形は円形で、陽光面の果皮着色は中程度である。核重率は9.6%で中粒品種としては核が小さい傾向である。ヤニ果(外ヤニ)の発生率は2.2%と極めて少ない(表2, 図2)。

種子親の‘玉織姫’と比較して、生理落果が少ない点等で明確に区別される。また、花粉親の‘十郎’と

比較して、生理的成熟期が早い点や果実がやや小さい点等で明確に区別される。

### (3) 梅干し加工後の特性

梅干し表面の色調はa\*値が7.2と比較的低く、L\*値が44.2と高いことから、赤みが少なく明るい色に仕上がる点が特徴である(表3, 図5)。果皮破断強度は

0.61 kg/m<sup>2</sup> であり、果皮が柔らかく高品質とされている‘十郎’よりさらに柔らかい傾向である(表4)。

## 2. ‘虎子姫’

### (1) 樹・花の特性

樹勢は中程度で、樹姿は開張である。開花期の早晩は中程度で、満開日は育成地(神奈川県平塚市)で2月22日頃となり、‘南高’とほぼ同時期かやや遅く開花する(表1)。

### (2) 果実の特性

完熟果の収穫盛期は育成地において6月20日頃となり、‘南高’より5日程度早く収穫される品種である(表2, 図3)。

果実重は48g程度で、‘南高’とほぼ同程度の大粒となる。果形は短楕円形で、陽光面の果皮着色は‘南高’より少ない。核重率は5.7%となり、核が極めて小さい点の特徴である。ヤニ果(外ヤニ)の発生率は0.6%と極めて少ない(表2, 図4)。



図5 ‘十郎小町’の梅干し

種子親の‘南高’と比較して、核が小さい点等で明確に区別される。

### (3) 梅干し加工後の特性

梅干し表面の色調はa\*値が10.5と高く、‘十郎’より赤みが強い色に仕上がる点の特徴である(表3, 図6)。

果皮破断強度は0.62 kg/m<sup>2</sup> であり、果皮が柔らかく高品質とされている‘十郎’よりさらに柔らかい傾向である(表4)。

## 3. 栽培上の留意点・普及性

両品種とも病害虫の発生は少ない傾向であり、慣行の防除で対応できる。

‘十郎小町’は開花期が早いため、受粉樹の選定と確保に留意する。

‘十郎小町’は和歌山産‘南高’より早く市場出荷できるため、有利販売が可能な品種として導入が見込まれる。また、小田原市でブランド化を進めている‘十郎’の姉妹品種としても期待される。



図6 ‘虎子姫’の梅干し

表3 梅干し表面の色調・明度<sup>z</sup>

品種	a*	b*	L*
十郎小町	7.2	21.7	44.2
虎子姫	10.5	22.4	41.9
玉織姫	8.3	22.9	42.6
十郎	4.2	17.4	41.0

<sup>z</sup> 各品種3果を供試(2009年)

表4 梅干しの果皮及び果肉の強度<sup>z</sup>

品種	果皮破断強度 (kg/m <sup>2</sup> )	果肉圧縮強度 (kg/m <sup>2</sup> )
十郎小町	0.61±0.24	0.17±0.04
虎子姫	0.62±0.28	0.17±0.03
玉織姫	0.80±0.29	0.14±0.02
十郎	0.84±0.21	0.11±0.06

<sup>z</sup> 各品種3果を供試(2009年)

‘虎子姫’は結実性に優れている上、神奈川県において‘南高’より早く収穫することができ、核が小さく果皮の柔らかい高品質な梅干しに加工できるため、‘南高’に代わる品種として導入が見込まれる。

### 命名の由来

‘十郎小町’は、花粉親が‘十郎’であることと、共同育成者の小田原市梅研究会が選抜に深く関わっていたことから、城下町の小田原市をイメージする小町を加えて命名された。

‘虎子姫’は、「曾我物語」に登場する曾我十郎の妻で育成地の神奈川県平塚市に居住していた虎御前（虎女）に由来する。

### 謝 辞

本研究の遂行にあたり、神奈川県農業技術センター足柄地区事務所ほか関係諸機関の方々には、現地試験等において多大なご協力をいただいた。また、東京農業大学の山口正己教授にはお忙しい中本稿のご校閲をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。